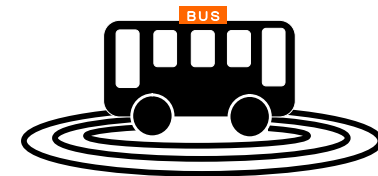


しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト
(全体計画：2018～2020年度)

未来創造まちづくり構想会議

平成30年10月5日

静岡県交通基盤部都市局



目次

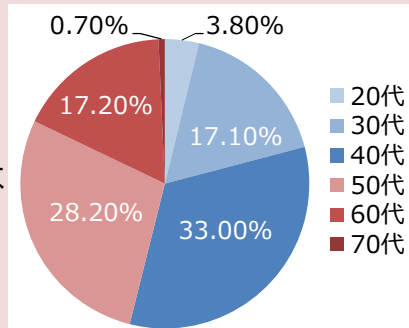
- 1 地域交通等に係る現状と課題
- 2 自動運転に係る背景
- 3 プロジェクトの発足
- 4 ダイナミックマップ基盤株式会社
- 5 3次元データ保管管理システム（PCDB）
- 6 VIRTUAL SHIZUOKA構想
- 7 プロジェクトの実施方法
- 8 実施方法と推進体制
- 9 企業連携による実験
- 10 プロジェクト推進体制
- 11 プロジェクトスケジュール
- 12 30年度事業（案）
- 13 国申請計画での位置づけ
- 14 （参考資料）

I 静岡県の地域交通に係る現状と課題

1 乗務員の不足

- ・県内バス事業者乗務員の約5割が50歳以上(うち60歳以上が約2割)
- ・近年の路線バスの退出現理由は乗務員不足が原因
- ・若年層、新規雇用の確保が困難

バス事業者乗務員の年齢構成



県内乗合バス事業者集計(中部運輸局データ)

2 バス路線の維持と確保

- ・約700系統(39%)が行政の財政負担により運行
- ・内、年間約50系統で事業者が退出を希望

- 市町自主運行系統数
- 事業者補助運行系統線
- 事業者運行系統数

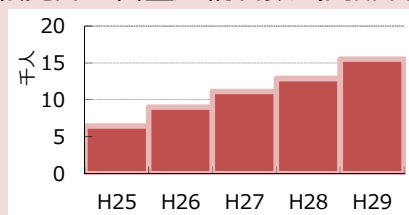


県内バス系統数(県地域交通課)

3 高齢者等の免許返納等

- ・認知機能検査による免許取消処分(改正道路交通法)
- ・高齢者の免許返納数が増加(H25→29:2.4倍)
- ・高齢者の生活交通、移動の確保が喫緊の課題

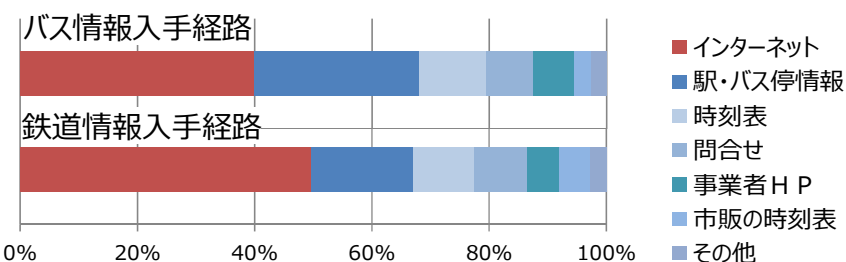
運転免許証自主返納者数(高齢者)



静岡県内の総数(公安委員会提供)

4 公共交通のICT化

- ・インターネットにより運行情報を入手する者が増加
- ・路線バスの情報化は鉄道と比較しても整備水準が低い
- ・移動に関するアプリケーションは近年増加



内閣府世論調査 2016

II EV化による静岡県への影響

- ・EV化が本県の基幹産業に与える影響は約55%(55%の製造品出荷額が減少すると想定)
- ※EVショック割合: ガソリンエンジンがモーターに置き換わった場合の出荷額の落ち込み度)

都道府県	自動車関連製造品出荷額		事業所数		EVショック割合(%)
	額(兆円)	全国シェア	所	全国シェア	
全国	33.1	100.0	8,120	100	29.5
愛知	17.3	52.1	1,677	20.7	17.5
静岡	2.7	8.2	1,140	14	54.9
群馬	1.7	5.3	486	6	60.7
神奈川	1.2	3.7	446	5.5	35.7
三重	1.2	3.6	286	3.5	21.0
埼玉	1.2	3.5	551	6.8	33.0

静岡経済研究所2017.10レポート

Ⅲ 静岡県内の自動運転の取組等

1 県内企業の動向

電磁誘導線 自動運転技術開発



浜松やらまいかプロジェクト
・バス運行システムの実証






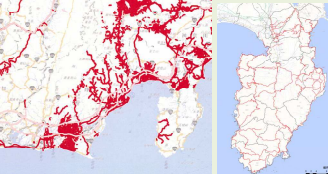


2 点群データの活用



県管理道路1,000km以上の点群データをオープンデータ化
⇒全国初

ダイナミックマップ基盤(株)と静岡県との協定締結(2017.11)

・県有データから高精度3Dマップ化(自動運転活用)に成功 (県・市町保有の道路点群データ)





3 大規模イベントの開催


エコパスタジアム(袋井市)開催 2019

ベロドローム開催(伊豆市)開催 2020



Ⅳ 自動車業界の CASE[※] 化の潮流

1 自動車業界の将来予測



自動運転	0%⇒23%
E V化	1%⇒30%
カーシェア	3%⇒18%


※ CASE

Connected :つながる

Autonomous :自動運転

Shared :共同所有

Electric :電動化



ポストンコンサルティング2018.1報告

2 自動運転実証実験

ラストワンマイル実証 (国交省・経産省)

道の駅プロジェクト (国交省)

沖縄大規模実証 (SPI・内閣府)




アイサンテクノロジー DeNA





先進モビリティ ヤマハ発動機

内閣府報告2018.3

3 国の自動運転ロードマップ

無人自動運転移動サービス
: 2020(地域限定でサービス開始)
⇒2030(100ヶ所以上でサービス展開)



自動運転に係る制度整備大綱より



エコパドリームプロジェクト



- E V 実験 
- ドローン実験 
- マルチメディア実験 

小笠山総合運動公園
を実験フィールドとして活用

30年5月28日合同発足式

点群座標データの活用



1,000km以上のデータを県が蓄積

3次元座標データ



3Dマップ化

しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト

場所(地図) ↔ 車両 ↔ 制御システム

- 場所(地図)**
 - ・愛野駅⇔エコパ間の高精度3D地図化
 - ・安全輸送の検証

DYNAMIC MAP PLATFORM
- 車両**
 - ・県内関連企業のEV
 - ・自動走行のための車両開発
 - ・自動運転へのカスタマイズ

TAJIMA ELECTRIC POWER
- 制御システム**
 - ・自動運転制御、管理システムの検証
 - ・運行システムの検証

名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY 



MMS
モバイルマッピングシステム
(移動式高精度三次元計測システム)



点群データ

点群データ

高精度三次元地図データ

動的情報

ITS先読み情報 (周辺車両、歩行者、信号情報 など)

準動的情報

事故情報、渋滞情報、広域気象情報 など

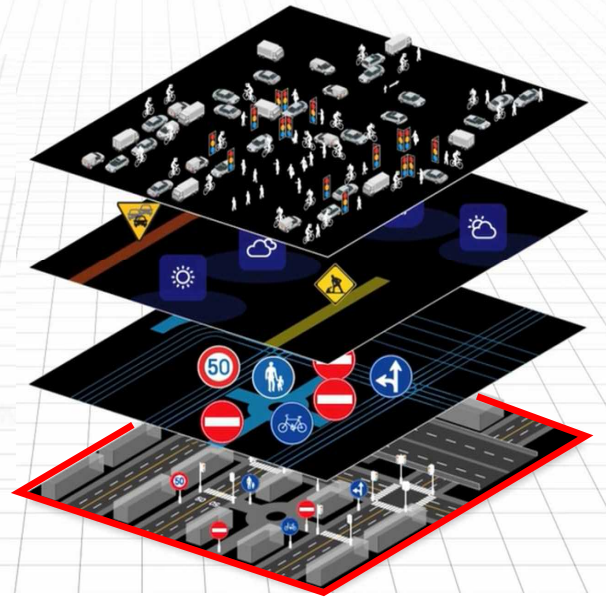
準静的情報

交通規制情報、道路工事情報、狭域気象情報 など

静的情報

路面情報、車線情報、3次元構造物 など

協調領域



DYNAMIC MAP

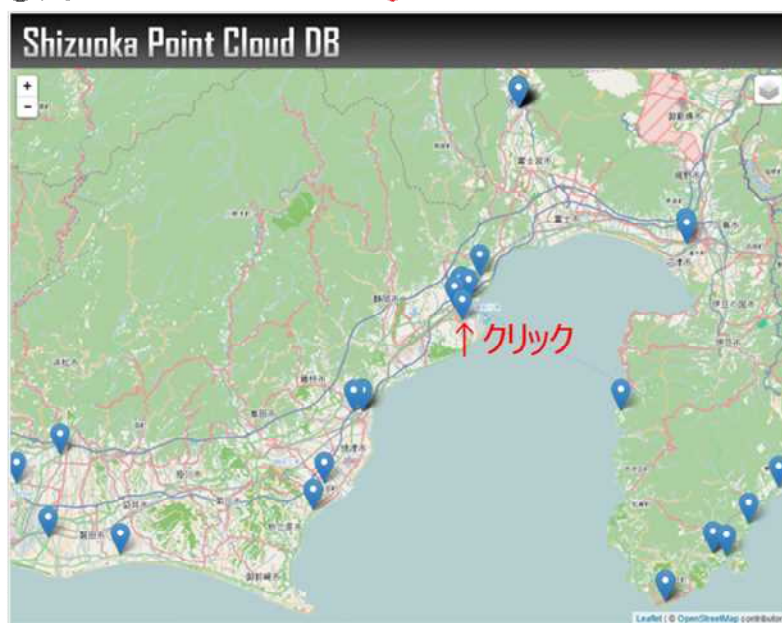
高精度3次元位置情報基盤の構築をめざす
ダイナミックマップ基盤株式会社

株式会社 産業革新機構 | MITSUBISHI ELECTRIC (Changes for the Better) | ZENRIN | PASCO (World's Leading Geospatial Group) | AISAN TECHNOLOGY CO.,LTD. | Increment P (FEEL THE SPACE) | mapmaster | ISUZU | SUZUKI | SUBARU | DAIHATSU | TOYOTA | NISSAN MOTOR CORPORATION | HINO | HONDA (The Power of Dreams) | mazda | MITSUBISHI MOTORS

①PCDBトップページ (https://pointcloud.pref.shizuoka.jp)



②閲覧ページ



③ダウンロード画面

工事番号	28-100010-00-02-82
案件名称	23歳未満_1150_h_2009(V)
実施業者	朝日国土株式会社
工期	
資料日付	平成20年3月1日
3Dデータ	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2800010000282-1.las (ファイルサイズ: 2099B) 2. 2800010000282-2.las (ファイルサイズ: 1309B) 3. 2800010000282-3.las (ファイルサイズ: 1879B) 4. 2800010000282-4.las (ファイルサイズ: 2099B) 5. 2800010000282-5.las (ファイルサイズ: 1249B) 6. 2800010000282-6.las (ファイルサイズ: 1209B) 7. 2800010000282-7.las (ファイルサイズ: 1209B) 8. 2800010000282-8.las (ファイルサイズ: 1209B) 9. 2800010000282-9.las (ファイルサイズ: 1209B) 10. 2800010000282-10.las (ファイルサイズ: 1219B) 11. 2800010000282-11.las (ファイルサイズ: 1309B) 12. 2800010000282-12.las (ファイルサイズ: 1249B) 13. 2800010000282-13.las (ファイルサイズ: 1219B) 14. 2800010000282-14.las (ファイルサイズ: 1249B) 15. 2800010000282-15.las (ファイルサイズ: 1149B) 16. 2800010000282-16.las (ファイルサイズ: 1109B) 17. 2800010000282-17.las (ファイルサイズ: 1209B) 18. 2800010000282-18.las (ファイルサイズ: 1209B) 19. 2800010000282-19.las (ファイルサイズ: 1209B) 20. 2800010000282-20.las (ファイルサイズ: 1209B) 21. 2800010000282-21.las (ファイルサイズ: 1279B) 22. 2800010000282-22.las (ファイルサイズ: 4009B) 23. 2800010000282-23.las (ファイルサイズ: 1179B) 24. 2800010000282-24.las (ファイルサイズ: 1179B) 25. 2800010000282-25.las (ファイルサイズ: 1179B) 26. 2800010000282-26.las (ファイルサイズ: 1209B) 27. 2800010000282-27.las (ファイルサイズ: 1409B) 28. 2800010000282-28.las (ファイルサイズ: 1309B) 29. 2800010000282-29.las (ファイルサイズ: 1309B) 30. 2800010000282-30.las (ファイルサイズ: 1209B) 31. 2800010000282-31.las (ファイルサイズ: 1209B) 32. 2800010000282-32.las (ファイルサイズ: 1309B) 33. 2800010000282-33.las (ファイルサイズ: 1179B) 34. 2800010000282-34.las (ファイルサイズ: 1179B) 35. 2800010000282-35.las (ファイルサイズ: 1309B) 36. 2800010000282-36.las (ファイルサイズ: 1209B) 37. 2800010000282-37.las (ファイルサイズ: 1209B) 38. 2800010000282-38.las (ファイルサイズ: 1209B) 39. 2800010000282-39.las (ファイルサイズ: 1409B) 40. 2800010000282-40.las (ファイルサイズ: 1309B) 41. 2800010000282-41.las (ファイルサイズ: 1409B) 42. 2800010000282-42.las (ファイルサイズ: 1309B) 43. 2800010000282-43.las (ファイルサイズ: 1179B) 44. 2800010000282-44.las (ファイルサイズ: 1209B) 45. 2800010000282-45.las (ファイルサイズ: 1109B) 46. 2800010000282-46.las (ファイルサイズ: 1109B) 47. 2800010000282-47.las (ファイルサイズ: 1249B) 48. 2800010000282-48.las (ファイルサイズ: 1309B) 49. 2800010000282-49.las (ファイルサイズ: 1409B) 50. 2800010000282-50.las (ファイルサイズ: 398B)

※業界標準のLAS形式

28XXXX10000287-3.las

※オープンデータ (CC-BY)

ライセンス →

出典: 『静岡県ポイントクラウドデータベース』または『静岡県PCDB』

【災害時の早期被害状況把握】




被災後データを取得 → 被災後データ

被災前のデータをダウンロード

災害発生

被災箇所と程度の迅速な把握による緊急啓開、災害復旧の効率化

【他分野・他産業での活用】



富士山チャレンジ → 3D登山道

リアルタイムな登山者の位置情報

景観形成

道路の3次元データを利用した自動運転

最近の道路データから

3次元データの共有と利用拡大

3次元データの集積（オープンデータ）

静岡県3次元データ保管管理システム（PCDB）

連携

その他のプラットフォーム


- ・G空間情報センター
- ・ダイナミックマップ等



VR（仮想現実）
AR（拡張現実）
等での活用

建設生産プロセスの関係者による利用エリア

3次元測量設計データ ↔ 工事完成データ ↔ インフラ点検管理データ

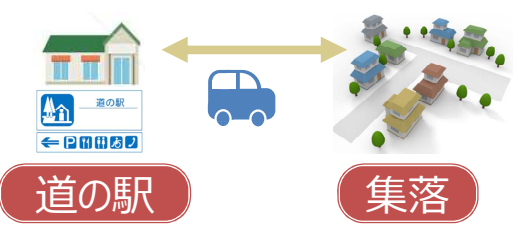
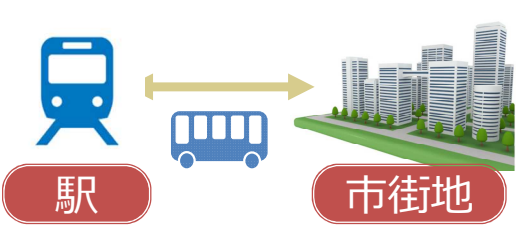
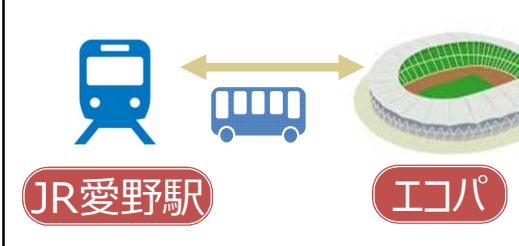

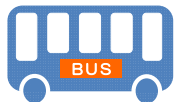



測量・設計業者 施工業者 維持管理・点検業者

理研等とSIPでモデル構築



RIKEN SIP

地域	過疎地 中山間地	都市部 中心市街地	小笠山総合運動公園
現状課題	1.路線バスの撤退 (乗務員不足・不採算) 2.高齢者の移動困難 (買物難民、通院不便)	1.観光移動 2.乗務員不足 3.新都市交通の導入 4.渋滞対策	1.イベント時の輸送 2.ユニバーサル対応
⇒自動運転は地域の交通課題を解決する手段となるのか？			
概念図			
車両	小型タイプ 	バスタイプ 	タクシータイプ 
時期	2019～2020年度		2018～2020年度
検証内容	1.走行安全性 (山間地、狭隘道路部、市街地等での技術検証) 2.社会受容性 (住民における自動運転社会への受入検証) 3.地域受容性 (市町における自動運転公共交通への受入検証) 4.ビジネスモデル検討 (交通事業者等における公共交通への受入検証)		

目的

各種車両（バスタイプ、超小型モビリティタイプ、タクシータイプの自動走行の可能性検証（公道及び閉鎖道路空間を含む）
 ※レベル1～レベル4

実施期間 2018～2020年度

実証場所

小笠山総合運動公園

JR 愛野駅 エコパ

検証内容	検証の具体的内容	検証方法
1. 走行安全性	(1)各種車両タイプの走行可能性検 (2)公道走行の可能性検証	(1)園路、園内駐車場内での走行試験 (2)愛野駅－エコパの公道実験
2. 社会受容性	(1)利用者における受容性 (2)周辺ドライバーにおける受容性	(1)エコパ利用者（想定）による試乗アンケート (2)自動走行車両周辺ドライバーアンケート
3. 地域受容性	(1)地域社会における受容性 (2)地域政策における受容性	(1)一般公募者試乗アンケート、2(1)と同一 (2)地方自治体職員による試乗アンケート
4. ビジネスモデル検討	(1)専門分野における受容性	(1)公共交通関連事業者、 公園管理者アンケート

目的

バス、自家用車のみが移動手段となっている過疎化、高齢化が著しい地域において、生活環境の改善と**新たなライフスタイルを補完する自動運転走行による安全で高頻度の移動サービスの実現性**を検証

※レベル3レベル4
実施期間 2019～2020年度

実証場所

過疎・中山間地域（高齢者の移動支援）

The diagram illustrates the service area. On the left, a building icon represents 'Public facilities and road stations' (公共施設・道の駅). On the right, a cluster of houses represents 'Settlements' (集落). A green bus is shown in the center, with a double-headed arrow indicating the route between the two locations.

検証内容	検証の具体的内容	検証方法
1. 走行安全性	(1) 地域にあった車両の走行実験	(1) 狭隘部、山間地での走行試験 ※技術はエコパ周辺、園内で検証
2. 社会受容性	(1) 利用者における受容性 (2) 周辺車両との受容性（低速性）	(1) 高齢者住民による試乗アンケート (2) 自動走行車両周辺ドライバーアンケート
3. 地域受容性	(1) 地域社会における受容性 (2) 地域政策における受容性	(1) 一般公募者試乗アンケート、2(1)と同一 (2) 地方自治体職員による試乗アンケート
4. ビジネスモデル検討	(1) 専門分野における受容性 (2 次交通としての可能性)	(1) 公共交通関連事業者アンケート

目的

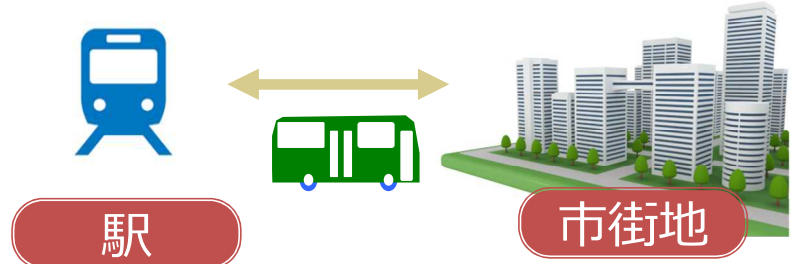
鉄道駅と市街地または、観光拠点とを繋ぐ新たな公共交通として、移動自体が目的となる機能や、交通結節点の強化を進め、沿線、周辺全体でまちづくりを考える手段としての**移動サービスの実現性**を検証

※レベル3レベル4

実施期間 2019～2020年度

実証場所

都市部・中心市街地域（渋滞対策、駐車場不足）



検証内容	検証の具体的内容	検証方法
1. 走行安全性	(1) 地域にあった車両の走行実験	(1) 市街地・都市部での走行試験 ※技術はエコパ周辺、園内で検証
2. 社会受容性	(1) 利用者における受容性 (2) 周辺車両との受容性（低速性）	(1) 高齢者住民による試乗アンケート (2) 自動走行車両周辺ドライバーアンケート
3. 地域受容性	(1) 地域社会における受容性 (2) 地域政策における受容性	(1) 一般公募者試乗アンケート、2(1)と同一 (2) 地方自治体職員による試乗アンケート
4. ビジネスモデル検討	(1) 専門分野における受容性 (2 次交通としての可能性)	(1) 公共交通関連事業者、 公園管理者アンケート

県と市町との関わり

- ・市町が抱える地域交通の課題に対し、県のプロジェクトが技術的支援を通し、検証を実施



今後広がる実証実験（案）

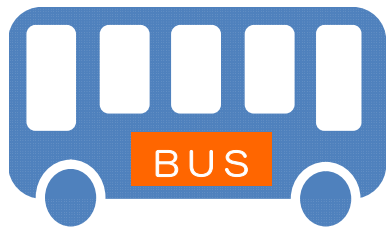
信号情報



アプリケーション
(運行情報)
(観光情報)



乗降客情報



情報セキュリティ
インフラ点検 など

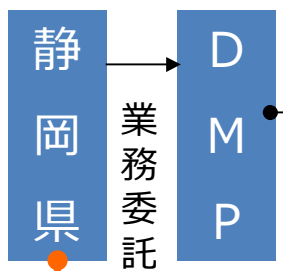
インフラからの情報

路面情報 (氷結、人感)

交通情報 (通行止、信号) など



自動運転実証実験から様々な分野と連携



提携

- ・車両メーカー
- ・センサーメーカー
- ・通信会社
- ・コンテンツプロバイダー
- ・インフラ会社 (信号・照明) etc

協定



H30年度～

次世代モビリティを見据えた将来のまちづくりを検討

しずおか自動運転ShowCASEプロジェクトの推進

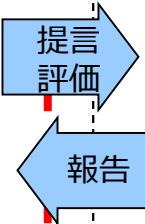
A 未来創造まちづくり構想会議
(H30.10設立)
自動運転などの次世代モビリティ・システムの導入による県内交通に係る将来まちづくり構想

【構成委員】
学識経験者
国、県

状況に応じて参画委員を変更

意見・提言・評価
県内の将来の次世代交通のあり方
次年度以降の実証実験の方法への意見
実証実験の結果についての評価 など

新たな交通による将来まちづくりへの影響と県のプロジェクトへの提言・評価



計画等の決定機関

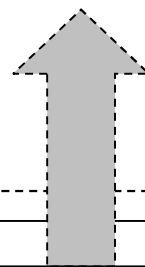
B しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト推進委員会 (県局長級)
(H30.9設立)
・事業計画の策定, 地区の選定

具体計画案の策定

C しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト推進委員会幹事会 (課長級)
・推進委員会の下部組織

報告 ↑ 指示 ↓

自動運転に関する委員会 (県行政機関 + 市町等)



H29年度

プロジェクトの発足までの準備期間

自動運転プロジェクトチーム (担当者会議)
情報共有・予算要求
・計画策定・内部調整
(H29年13回開催 H30年3回開催)

未来創造まちづくり構想会議

1 設置目的

自動運転などの次世代モビリティ・システムの導入による静岡県の交通に係る将来のまちづくりの構想と、それらに係る実証実験及び社会実装等についての評価、提言を行う。

2 検討内容

- (1) 次世代モビリティ・システムの導入により、地域が抱える交通に関する課題への効果、影響と将来のまちづくりの構想・ビジョンに関すること。
- (2) 将来のまちづくりを踏まえた「しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト」の方向性に関すること。
- (3) プロジェクトに係る助言、提言及び評価に関すること。

3 構成委員（6人）

所属・職名	氏名
国立大学法人名古屋大学未来社会創造機構 教授	森川 高行
学校法人日本大学理工学部 教授	藤井 敬宏
学校法人静岡理工科大学 特任教授	高橋 久
一般財団法人静岡経済研究所 常務理事	大石 人士
国土交通省中部運輸局交通政策部 計画調整官	中村 尚久
静岡県交通基盤部理事（地域交通担当）兼景観まちづくり監	植田 基靖

しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト推進委員会

1 設置目的

自動運転の実証実験を実施するプロジェクトを推進し、県民の移動を支援する自動運転の社会実装を目指す。

2 所掌事務

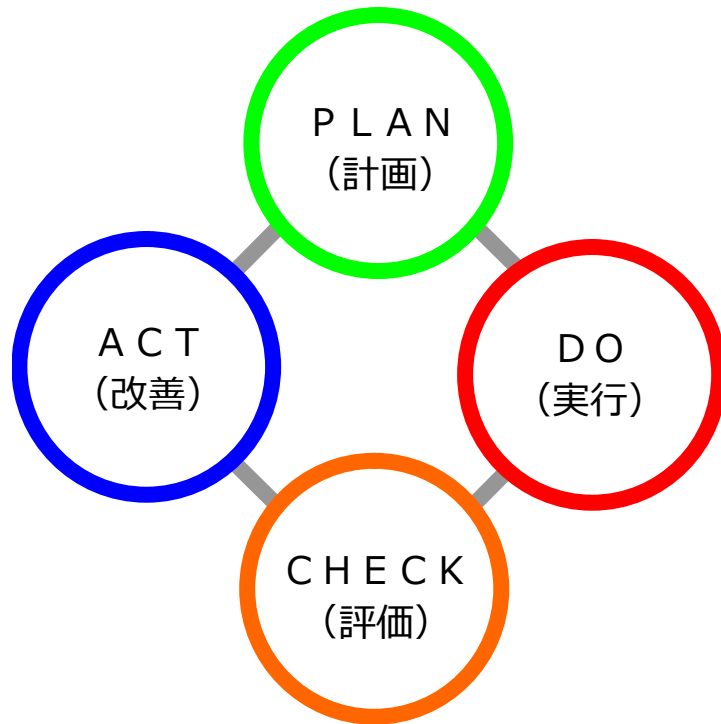
- (1) 実証実験の実施計画策定に関すること。
- (2) 実証実験の実施地域の選定に関すること。
- (3) その他目的の達成に必要な事項に関すること。

3 構成組織（8人）

所属	職
静岡県経済産業部	産業革新局長
静岡県経済産業部	商工業局長
静岡県交通基盤部	理事（交通ネットワーク・新幹線新駅担当）
静岡県交通基盤部	理事兼建設技術監理センター所長
静岡県交通基盤部	道路局長
静岡県交通基盤部	都市局長
静岡県警察本部	交通部参事官兼交通企画課長
ダイナミックマップ基盤(株)	取締役（企画・管理担当）

区分	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
しずおか自動運転ShowCASE推進委員会 (局長級)				第1回(10/1)		第2回			第3回
				<ul style="list-style-type: none"> 全体計画策定 事業計画(30年度)策定 		<ul style="list-style-type: none"> 実証実験詳細計画 次年度実施地区 (案) 			<ul style="list-style-type: none"> 実験結果報告 次年度計画案
未来創造まちづくり構想会議 (第三者委員会)				第1回(10/5)			試乗		
				<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の方向性 実証実験の実施内容 県の将来交通への課題対応 					<ul style="list-style-type: none"> 結果報告の評価 次年度計画への意見
実証実験 (エコパ周辺)				公安委員会・公園管理者協議			実証実験 1/15~		
参画企業調整				タジマEV コンチネンタル アイサンテクノロジー					
静岡県EVシフト・自動運転化等研究会 (県経済産業部)	第2回 (7/26)		第3回 (9/10)		第4回 (11/15)		政策立案へ		
市町プロジェクト (実験フィールド)		説明会	現在、各市と調整中。都市部・過疎地域でのH31実施を検討			実施箇所選定 予算要求		次年度実施計画	

しずおか自動運転ShowCASEプロジェクトの計画の推進のため、P D C Aサイクルを行う



PLAN (計画)

全体計画の策定、事業計画の策定
しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト推進委員会
において、計画を承認。

DO (実行)

エコパ会場（エコパプロジェクトと一体的に実施）及び推
進委員会で決定する過疎地域、市街地、都市部におい
て実証実験を実施。

CHECK (評価)

未来創造まちづくり構想会議から、計画に基づく実証実
験の結果や計画についての評価を行う。

ACT (改善)

評価に基づき、計画や実証実験方法の見直しを行う

計画概要

区分	項目	内容
地域再生計画	名称	E V・自動運転化等技術革新対応促進計画
	主体	静岡県
	区域	静岡県全域
	目標	E V・自動運転化の進展に対応し、県内の多くの企業がE Vや自動運転技術関連部品の開発・製造に参入し、E Vや自動運転技術においても重要な部品供給地となることを目指す。
地方創生推進交付金 (内閣府)	名称	未来の自動車産業創出事業
	期間	2018年度～2020年度
	総事業費	512,550千円(内、自動運転関連60,000千円)
	事業内容	1)県内企業によるE V・自動運転技術の開発・製造への参入を促進するため、自動車メーカーと県内企業の橋渡しと、技術力向上に対する支援を行う。 2)研究会活動や展示会への出展支援等を通じ自動車メーカーと県内企業によるビジネスマッチングの機会を創出するとともに、県工業技術研究所への試験・評価機器整備や県内企業への補助金による研究開発に対する支援を行う。 3)自動運転走行の基盤となる3次元座標データ(点群データ：全国に先駆けてオープンデータ化)を活用した自動運転実証実験を県内関連企業と行うことにより、技術開発を促進する。

目標数値 (K P I)

区分	開始前 (現時点)	2018年度 増加分 1年目	2019年度 増加分 2年目	2020年度 増加分 3年目	2021年度 増加分 4年目	2020年度 増加分 5年目	KPI増加 分の累計
E V化・自動運転化に対応した経営革新計画の 新規承認件数(件)	19	10	12	14	-	-	36
研究開発助成制度等を活用したE V化・自動運 転化に対応した製品化件数(件)	0	0	0	2	-	-	2
自動運転移動サービス導入検討地域数(地域)	0	2	2	2	-	-	6

超小型モビリティ



タジマEV
(ジャイアン)
運転手1名
助手席1名

ナンバー取得
(地域限定)

走行速度
20km程度/h

自動運転 (遠隔操作) 実績なし

バス型モビリティ



Self Driving Car
(乗者6人)
操作 1名
座席 5名

ナンバー未取得

走行速度
20km程度/h

自動運転 (無人走行) 実績あり (海外)

タクシー型モビリティ



アイサンテクノロジー(エステイマ)
乗者3人

ナンバー取得済

走行速度
40km程度/h

自動運転 (遠隔操作) 実績あり



開発
状況等

構想
段階

公道
実証
実験

実用
化済
・普
及段
階



官民ITS構想・ロードマップ2017等を基に作成

ACC: Adaptive Cruise Control, LKAS: Lane Keep Assist System *1 (株)SUBARU HP *2 日産自動車(株)HP *3 本田技研工業(株)HP *4 トヨタ自動車(株)HP *5 Volvo Car Corp. HP *6 CNET JAPAN HP

○警察庁より、平成28年5月に「自動走行システムに関する公道実証実験のためのガイドライン」が、また、平成29年6月に「遠隔型自動運転システムの公道実証実験に係る道路使用許可の申請に対する取扱の基準」が公表された。

■ 自動走行システムに関する公道実証実験のためのガイドライン

○公表：平成28年5月

○目的：

公道実証実験を実施するにあたり留意すべき事項等を示すことにより、適正かつ安全な公道実証実験に資することを目的とする。

○基本的制度：

現行法上、次の条件を満たせば、場所や時間にかかわらず、公道実証実験を行うことは可能である。

- ・公道実証実験に用いる車両が道路運送車両の保安基準の規定に適合していること
- ・運転者となる者が実験車両の運転者席に乗車して、常に周囲の道路交通状況や車両の状態を監視し、緊急時等には、他人に危害を及ぼさないよう安全を確保するために必要な操作を行うこと
- ・道路交通法を始めとする関係法令を遵守して走行すること

○留意すべき事項：

- ・実施主体の基本的な責務
- ・公道実証実験の内容等に即した安全確保措置
- ・テストドライバーの要件
- ・テストドライバーに関連する自動走行システムの要件
- ・公道実証実験中の実験車両に係る各種データ等の記録・保存
- ・交通事故の場合の措置
- ・賠償能力の確保
- ・関係機関に対する事前連絡

■ 遠隔型自動運転システムの公道実証実験に係る道路使用許可の申請に対する取扱の基準

○公表：平成29年6月

○目的：

遠隔型自動運転システムの公道実証実験について、一定の安全性を確保しつつ円滑に実施することを可能とすることを目的とする。

○許可の基準：

- ・実験の趣旨等
- ・実施場所・日時
- ・安全確保措置
- ・遠隔型自動運転システム等の構造等
- ・緊急時の措置
- ・遠隔監視・操作者となる者
- ・走行審査
- ・1名の遠隔監視・操作者が複数台の実験車両を走行させる場合の審査の基準

○許可期間：

原則として最大6か月の範囲内で、実験場所の交通状況に応じた期間

○許可に付する条件：

- ・実施場所・実施時間等
- ・走行方法
- ・交通事故等の場合の措置 等

平成30年7月25日時点

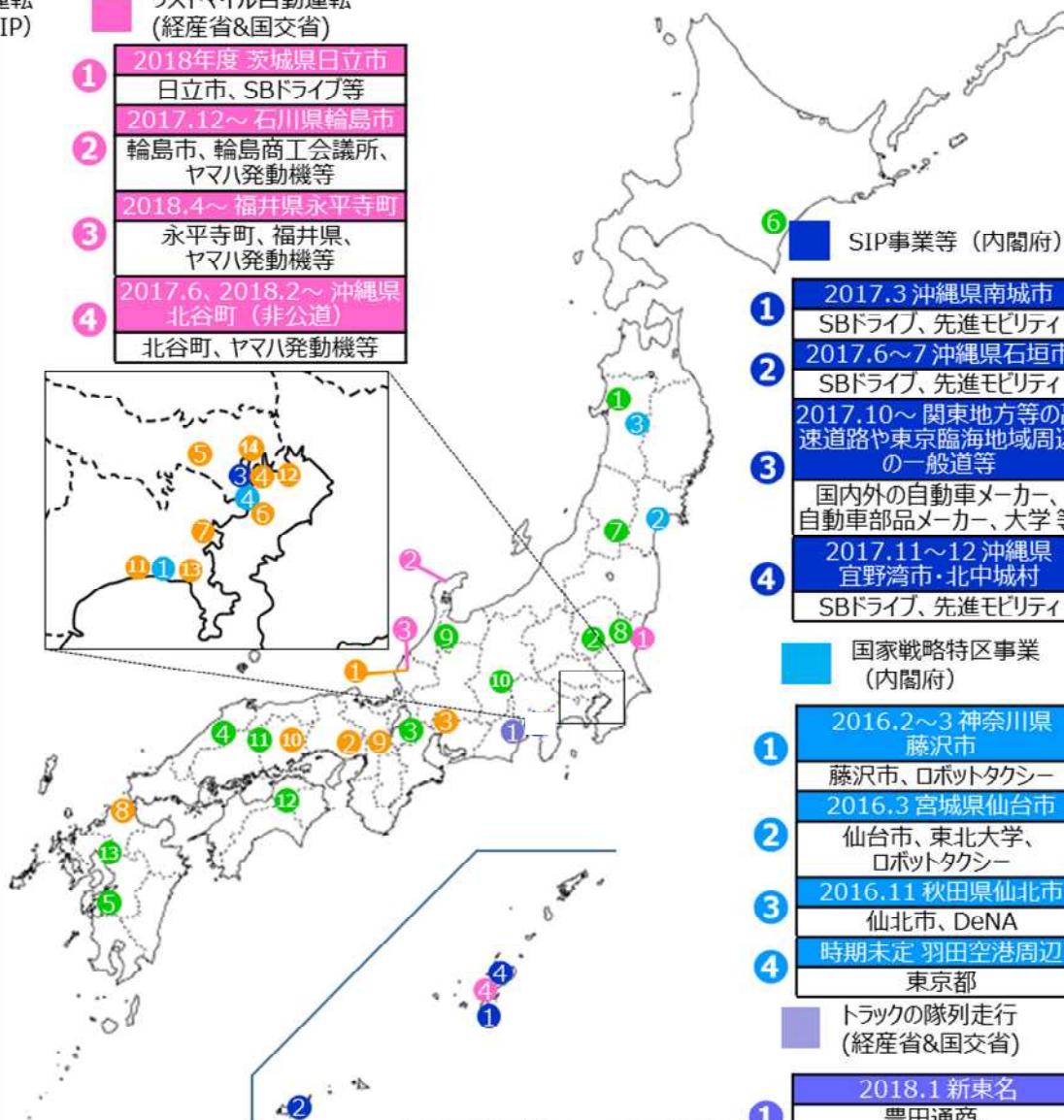
自治体、民間又は大学
※主な実証実験を記載

道の駅等を拠点とした自動運転サービス (国交省/内閣府SIP)

ラストマイル自動運転 (経産省&国交省)

- 1 2017.12 秋田県 上小阿仁村
道の駅「かみこかに」
- 2 2017.9 栃木県 栃木市
道の駅「にししかた」
- 3 2017.11 滋賀県 東近江市
道の駅「奥永源寺・溪流の里」
- 4 2017.11 島根県 飯南町
道の駅「赤来高原」
- 5 2017.9~10 熊本県 芦北町
道の駅「芦北でこぼん」
- 6 2017.12 北海道 大樹町
道の駅「コスモール大樹」
- 7 2018.2~3 山形県 高島町
道の駅「たかはた」
- 8 2017.11 茨城県 常陸太田市
道の駅「ひたちおた」
- 9 2017.11 富山県 南砺市
道の駅「たいら」
- 10 2018.2 長野県 伊那市
道の駅「南アルプス長谷」
- 11 2018.3 岡山県 新見市
道の駅「鯉ヶ窪」
- 12 2017.12 徳島県 三好市
道の駅「いしいや・かずら橋夢舞台」
- 13 2018.2 福岡県 みやま市
みやま市役所 山川支所

- 1 2018年度 茨城県 日立市
日立市、SBドライブ等
- 2 2017.12~ 石川県 輪島市
輪島市、輪島商工会議所、ヤマハ発動機等
- 3 2018.4~ 福井県 永平寺町
永平寺町、福井県、ヤマハ発動機等
- 4 2017.6、2018.2~ 沖縄県 北谷町 (非公道)
北谷町、ヤマハ発動機等



※内閣官房資料等をもとに国土交通省作成

- SIP事業等 (内閣府)
 - 1 2017.3 沖縄県 南城市
SBドライブ、先進モビリティ
 - 2 2017.6~7 沖縄県 石垣市
SBドライブ、先進モビリティ
 - 3 2017.10~ 関東地方等の高速道路や東京臨海地域周辺の一般道等
 - 4 国内外の自動車メーカー、自動車部品メーカー、大学等
 - 2017.11~12 沖縄県 宜野湾市・北中城村
SBドライブ、先進モビリティ
- 国家戦略特区事業 (内閣府)
 - 1 2016.2~3 神奈川県 藤沢市
藤沢市、ロボットタクシー
 - 2 2016.3 宮城県 仙台市
仙台市、東北大学、ロボットタクシー
 - 3 2016.11 秋田県 仙北市
仙北市、DeNA
 - 4 時期未定 羽田空港周辺
東京都
- トラックの隊列走行 (経産省&国交省)
 - 1 2018.1 新東名
豊田通商、国内トラックメーカー等

- 1 2017.10~2019.3 福井県 永平寺町
福井県、永平寺町、パナソニック
- 2 2017.11~12 神戸市 北区
神戸市、みなと観光バス、群馬大学等
- 3 2017.12~2018.2 愛知県 幸田町、春日井市、名古屋市
愛知県、アイサンテクノロジー等
- 4 2017.12 東京都 江東区
ZMP
- 5 2018.1 東京都 杉並区
杉並区、アイサンテクノロジー、東京大学等
- 6 2018.2 羽田空港整備場地区
ANA、SBドライブ
- 7 2018.3 神奈川県 横浜市
日産、DeNA
- 8 2018.3 福岡県 北九州市
九州工業大学、北九州市北九州産業学術推進機構
- 9 2018.3 京都府・大阪府・奈良県 (けいはんな学研都市)
関西文化学術研究都市推進機構 RDMM推進機構
- 10 2018.4 岡山県 赤磐市
SBドライブ、宇野自動車
- 11 2018.4 神奈川県 藤沢市
ヤマト運輸、DeNA
- 12 2018.5 東京都 江東区
大和自動車交通
- 13 2018.5 神奈川県 藤沢市
小田急、神奈川中央交通 慶應義塾大学、SBドライブ
- 14 2018.8~9 東京都 千代田区、港区
日の丸交通、ZMP